

改ページ

1. 概要	2
2. 改ページコードによる改ページについて	3
3. 改ページ文字による改ページについて	4
4. 行数による改ページについて	5
Datamap エディタからの指定	5
実行コマンドオプションからの指定	5
5. XML での改ページ設定について	6
要素の終了後に改ページ	6
要素の繰り返し後に改ページ	6
6. 表オブジェクトでの改ページ設定について	7
7. DB データマップでの改ページ設定について	8

1. 概要

帳票を出力するとき、1枚のレイアウトから複数のページを出力する改ページ機能があります。改ページ機能を利用することで、データファイルの内容に応じて複数ページの帳票を出力することができます。

入力データソースがCSV型もしくはTXT型の固定帳票の改ページを実現する方法は以下の通りです。

- ・改ページコードによる改ページ
- ・改ページ文字による改ページ
- ・行数による改ページ

<< 注意 >>

表オブジェクトを使用している可変明細帳票では、Formエディタ上に表示されるアンカーで改ページを設定します。詳細は「6. 表オブジェクトでの改ページ設定」を参照してください。

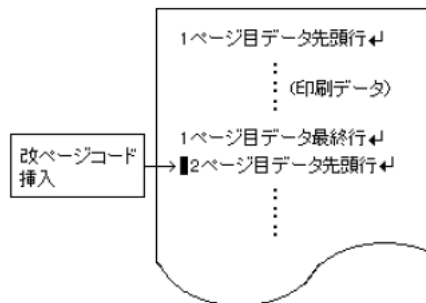
入力データソースがXML型またはDB型を使用したときの改ページの設定方法は上記と異なります。XML型の帳票の改ページ設定については「5. XMLでの改ページ設定について」を、DB型の帳票の改ページ設定については「7. DBデータマップでの改ページ設定について」をそれぞれ参照して下さい。

2. 改ページコードによる改ページについて

改ページコードは一般的に FF (0Ch) で表示される 1 バイトコードで、このコードがデータファイル中に現れると改ページ処理が行われます。なお、改ページコードによる改ページ処理は既定の設定となります。

改ページ文字による改ページ設定や行数による改ページ設定が行われていた場合でも、データファイル中に改ページコードが現れると優先的に改ページ処理が行われます。また、改ページコードはデータとして扱われません。

図：改ページコード挿入イメージ



<< 注意 >>

改ページコードは必ず次ページ先頭行データの直前に付加する必要があります。改ページコードの後ろにあるデータ（改行コードを含む）は全て次ページのデータとして扱われます。

<< Tips >>

Create!FormDesign 付属のテキストエディタでは、ツールボタン「改ページコード挿入」をクリックすることで任意の位置に改ページコードを入力できます。

（メニュー「編集」-「改ページコードを挿入」でも同じ操作ができます。）

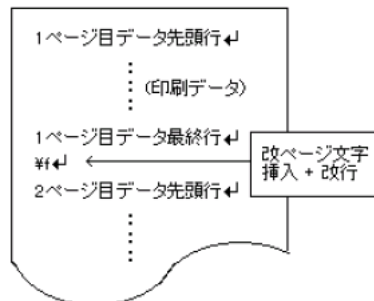
図：ツールボタン「改ページコード挿入」



3. 改ページ文字による改ページについて

任意の文字（文字列）を改ページのコードとして指定することができます。標準では“¥f”の2文字が改ページ文字として設定されています。指定可能な文字は、任意の半角英数字及び半角記号（アスキーコード 0x21 ～ 0x7F）です。

図：改ページ文字挿入イメージ



<< 注意 >>

改ページ文字は改ページコードと同様にデータとしては扱われません。改ページ文字の直後には必ず改行コードが必要となります。

※改ページ文字の先頭から改行コードまでを改ページ文字として認識します。

改ページ文字は、Datamap エディタで設定します。設定は、Datamap エディタのツールメニュー [ファイル] - [データマップ設定] の [ページ] タブから行うことが可能です。

◆◆ 操作 ◆◆

Datamap エディタを起動します。

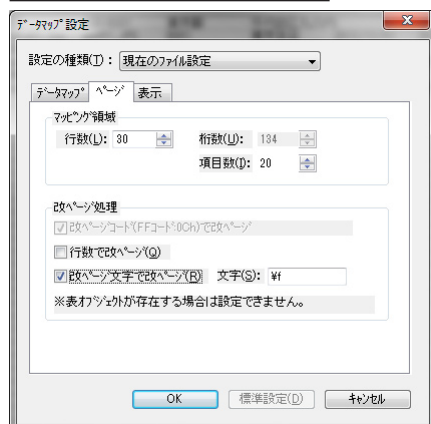
ツールメニュー [ファイル] - [データマップ設定] を選択してデータマップ設定ダイアログを起動します。

ページタブを選択し、[改ページ文字で改ページ] チェックボックスにチェックを入れます。

[文字] テキストボックスに改ページ文字として指定したい文字（文字列）を入力します。

[OK] ボタンをクリックします。

図：データマップ設定ダイアログ



4. 行数による改ページについて

行数による改ページ指定では、データ行が指定した行数に（改行までで判断して）達した時に改ページ処理を行います。

「行数による改ページ」を設定する方法は、帳票ジョブを作成する際に Datamap エディタから指定する方法と、帳票出力時に実行コマンドオプションから指定する方法の 2 種類があります。

Datamap エディタからの指定

改ページの設定は、Datamap エディタのツールメニュー [ファイル] - [データマップ設定] の [ページ] タブから行うことが可能です。

◆◆ 操作 ◆◆

Datamap エディタを起動します。

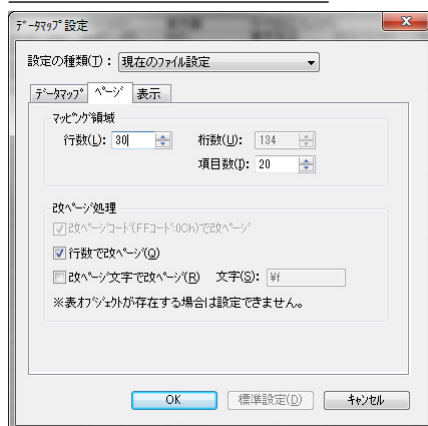
ツールメニュー [ファイル] - [データマップ設定] を選択してデータマップ設定ダイアログを起動します。

ページタブを選択し、[行数] テキストボックスに 1 ページに出力するデータの行数を入力します。

[行数で改ページ] チェックボックスにチェックを入れます。

[OK] ボタンをクリックします。

図：データマップ設定ダイアログ



この図の例では、マッピング領域の行数を [30] と設定しているため、データ行数が 30 行ごとに改ページ処理が行われます。任意のマッピング領域の行数を指定することで、その行数ごとに改ページ処理が行われます。

実行コマンドオプションからの指定

実行コマンドオプションから指定する場合は、ランタイム実行時のオプション [-l] を使用します。例えば、改ページ行数を 30 行で指定する場合は [-l30] と指定します。

※ Datamap エディタと実行コマンドオプションの両方で改ページ行数を指定した場合は、実行コマンドオプションの指定が優先されます。

5. XML での改ページ設定について

XML データマップ形式にて複数ページの帳票出力を行う場合は、Datamap エディタ上で改ページ設定を行う必要があります。

XML での改ページ設定には、以下の 2 種類の設定があります。

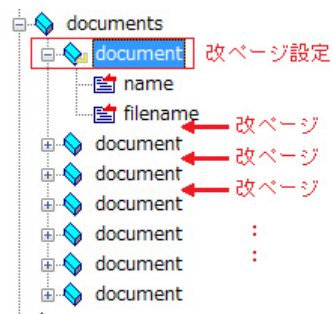
要素の終了後に改ページ

要素の繰り返し後に改ページ

要素の終了後に改ページ

改ページ設定を指定した要素の終了後に改ページ処理が行われます。

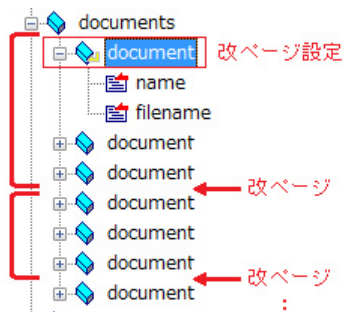
図：改ページイメージ



要素の繰り返し後に改ページ

改ページ設定を指定した要素が指定回数分繰り返された後に改ページ処理が行われます。

図：改ページイメージ



※図は「繰り返し数」を 3 に設定した場合の設定です。

改ページ設定は、Datamap エディタの改ページ設定モード画面から行うことが可能です。Datamap エディタはマッピングモードで起動しますが、ツールメニュー [モード] - [改ページ設定] を選択することで画面のモードを変更することができます。

※ XML での改ページ設定についての詳細は Design マネージャのメニュー [ヘルプ] - [オンラインマニュアル] から「3. 機能リファレンス」-「3.2 エディタの操作」-「XML 形式の Datamap エディタ」をご覧ください。

6. 表オブジェクトでの改ページ設定について

表オブジェクトでは、表の切り替わるタイミングでの改ページ処理や、キーブレイク発生時の改ページ処理を行うことができます。

Datamap エディタでの改ページ設定は有効となりませんのでご注意ください。

※表オブジェクトでの改ページ設定についての詳細は Design マネージャのメニュー [ヘルプ]-[オンラインマニュアル] から「3. 機能リファレンス」-「3.3 フォームオブジェクト」-「表オブジェクト（表組）」の「14. 改ページ」や「19. キーブレイク」をご覧ください。

7. DB データマップでの改ページ設定について

DB データマップ形式を使用した場合は、データベースからのデータ取得行数やキープレイク発生時に改ページ処理を行うことができます。

※ DB データマップでの改ページ設定についての詳細は Design マネージャのメニュー [ヘルプ] - [オンラインマニュアル] から「3. 機能リファレンス」 - 「3.2 エディタの操作」 - 「DB 形式の Datamap エディタ」をご覧ください。